

平成30年度第4回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 平成31年3月28日（木） 午前10時00分～午前11時5分

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開会
- 2 報告事項
 - (1) 平成31（2019）年度企業局各会計予算の概要について
 - (2) 消費税率の引上げに伴う料金改定について
 - (3) 函館水道創設130周年記念事業について
- 3 その他
- 4 閉会

【出欠状況】

■委員（出席16名）

（○は出席，敬称略）

所属団体	氏名	欠	所属団体	氏名	欠
公立はこだて未来大学	木村 健一	○	連合北海道函館地区連合会	樋口 信一	○
函館地域産業振興財団	三浦 汀介	○	函館市恵山地域審議会	斉藤 勝昭	○
北海道税理士会函館支部	川田 博仁	○	函館商工会議所	竹内 正幸	○
北海道電力株式会社送配電カンパニー函館支店	樫原 一郎	○	函館水産連合協議会	吉村健太郎	○
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	○	函館地区バス協会	渡部 浩典	○
函館市女性会議	佐々木 香	○	函館湯の川温泉旅館協同組合	大桃 誠	○
函館市町会連合会	木村 鶴一	○	一般公募	佐藤 好子	○
函館消費者協会	森元 浩	○	一般公募	山本 秀治	○

■事務局（出席管理職22名）

川越企業局長

- ・ 管理部 川村部長，成澤次長，細越総務課長，臼杵事業推進担当課長，高木経営企画課長，田中経理課長，木村料金課長，藤谷収納・滞納整理担当課長，川井東部営業所長
主査6名（経営企画課3名，経理課2名，料金課1名）
- ・ 上下水道部 加保部長，金野次長，米田管路整備室長，濱坂業務課長，船山計画・管路担当課長，丹内維持管理担当課長，鈴木温泉等担当課長，加地浄水課長，川村終末処理場長
- ・ 交通部 高坂次長，岩田事業課長，廣瀬施設課長，主査1名（事業課）

【会議発言概要】

1 開会

経営企画課長

これより平成30年度 第4回 函館市企業局経営懇話会を開会します。

2 報告事項

(1) 平成31(2019)年度企業局各会計予算の概要について

<資料1 説明> (経理課長)

―― 質疑応答 ――

川田委員

財務諸表について、従前のものと比べ大変読み取りやすくなっています。要望を聞き入れてくれてありがとうございます。

企業債が相当額あり、それに対する利息だと思われませんが、水道事業では総収入の約5パーセント、公共下水道事業会計では約10パーセントが利息として消えています。企業債の具体的な引き受け先は、どういう金融機関なのか教えていただきたい。また、交通事業において、平成30年度予算では、前年度から5パーセント程度減を見込まれていたと思いますが、平成31年度は、また5.8パーセント増ということで輸送人員の増加を見込んでいます。そうすると平成30年度の実績というのはどの程度なのか、教えていただけますか。

経理課長

企業債については、主に地方公共団体金融機構から借り入れしており、金融機構というのは、全国の市町村が出資してつくった組織であり、地方公共団体に低金利で貸し付けを行っている組織です。主に、そこから低金利で借り受けています。交通事業の平成30年度の今時点での見込みですが、乗車人員の見込みは、540万7千人ほどを見込んでいます。その内訳を言いますと、定期外で477万人、定期で約63万7千人を見込んでいます。金額での平成30年度の見込みでは約9億7,600万円を見込んでおり、定期外で約8億8,800万円、定期で約8,800万円を見込んでいます。

川田委員

今の答えによると、借り入れ先については全国の自治体が出資している公的なもので、そこに払い込んでいる利息は、市中金利よりもかなり割安であったという理解でよろしいのかということで、これは確認だけお願いします。それから、乗車人員については、実際の平成30年度については、見込みよりも四、五十万人多くのお客様に乗っていただいたと理解してよろしいですか。

経理課長

まず、利率については、市中銀行よりも低い金利で借り入れしています。乗車人員の平成30年度の実績については、予定よりも多い実績を見込んだところ です。

斉藤委員

水道事業について、若干お聞きをしたいと思います。
水道事業で未収金として約5億8,400万円。公共下水道事業でも約4億3,100万円の未収金があるのですが、これはどのようなことでの未収金なのか、お知らせいただきたい。

収納・滞納
整理担当課長

3月末の未収金については、3月末の決算ですから、3月末の時点での水道料金、下水道使用料は最終的に5月末にお金が入る形になり、どうしてもその2ヶ月の差額分が3月末の時点で未収金という形で発生し、このくらいの金額になっていると思います。2ヶ月分がちょうど跨がってしまい、次の年度の収入になる

のですが、この時点で決算すると、未収金はこのくらい発生するという形になります。

斉藤委員

長期に未収というのはなくて、2ヶ月のタイムラグの中で生じた未収金だけしかないという理解でよいですか。

収納・滞納
整理担当課長

収納率は、下水道使用料についても、水道料金についても、99.3パーセントくらいですので、ほぼ当該年度の未収金の発生は、ほとんどないものとなります。

斉藤委員

2月末現在の市の広報では、世帯数にして約230戸減少傾向にあると思うのですが、今の社会情勢からいくと、これからも、もっともって減っていくだろうという予測は簡単にたつと思います。そういう部分では、先程の説明でいくと上水道においては給水栓数が四捨五入により0パーセント減という説明であったと思いますが、世帯数の減少に対するこれからのビジョンとしては、どうしているのか、もしあるならばお知らせをいただきたい。

経営企画課長

皆様にお示ししている水道事業の経営ビジョンの中では、人口減少に伴って水道料金収入のほうも、大体年間で1パーセント程度下がるような見込みで財政の計画を立てています。

斉藤委員

市内と郡部とではかなり差異もあると思うのですが、そういう部分で経費というのは、旧4町村のほうが地域も長く、おそらく経費が掛かると思います。人口の減少傾向は、旧4町村のほうがおそらく旧市内より大きいのかなと、隣近所から聞けばついつい目立つような状況にあるわけですが、企業局としては、どういうふうに捉まえているのか、お知らせいただきたい。

経営企画課長

人口の減少と言いますか、確かに減少率は旧4町村のほうが多いでしょうけれども、企業局としましては、旧4町村は簡易水道として運営しており、旧4町村と旧市内と分け隔てなく、経営、運営していきたいと考えております。

斉藤委員

そういう部分でいくと、上下水道事業で剰余金があるのかな。だからそういう部分では、まだ安心かなと思いますが、先行きのことを考えると、今、民間委託がどうのこうのって話も出てきて、市のほうでは、まだそういうことは考えていませんという話であったと思いますが、損益の分岐点と言うのか、料金収入などに対して、人口がどのくらいまで下がったら、その損益分岐点辺りにいっちゃうのかなという計算をしたことはありますか。人口減少による収入の減少と工事等の経費がどこまで掛かっていったら、水道事業に影響が出てくるのかなという計算をしたことはありますか。

経営企画課長

今ある経営ビジョンの中では、計画末期でも累積財源を確保できる見込みとなっていますので、現在のところは、安定的に経営できるというふうには考えております。

管理部長

私のほうから、若干お話しさせていただきます。先程来、人口減少、すごく急激に進んでいるということで、東部の分を含め毎年3千人程度の人口が減っているという状況です。ご心配は、たぶん今のままの水道料金で人口が減っていったときに、水道料金、その入ってくるお金も減っていくというような状況になるだろうというお話だと思います。今お話したように当面は、当面は今の料金でも経営は維持できるというふうに考えていますが、もうこれ以上という場面がおそらく出てくるのだろうと、将来的には出てくるだろうというふうに思います。そのときには、まずは水道料金を値上げとかではなくて、おそらくこちら側のほうのコストの縮減を行って、その人口減少に対応していく、まずはそういう対応していくと。それでもなおかつ対応できないといった場合には、これ

は本当に、また、ここ10年、15年の話ではないというふうには思いますが、皆様に水道料金の値上げというものも将来的には、そういう場面があることも予想はされるのかなというふうに考えています。

斉藤委員

そういうことでは安心はしましたけれども、市立函館病院の財政赤字を見てみますと、一旦赤字になると、職員の皆さんも大変苦勞をなさっている状況もありますので、そういう部分でいくと節減等々を、今からでも始めていった中で、これからも経営をしていただきたいとお願いをして終わります。

(2) 消費税率の引上げに伴う料金改定について

<資料2 説明> (料金課長)

<資料3 説明> (経理課長)

---- 質疑応答 ----

質疑なし

(3) 函館水道創設130周年記念事業について

<資料4 説明> (経営企画課長)

---- 質疑応答 ----

質疑なし

3 その他

---- 質疑応答 ----

木村(鶴)委員

大手町町会として企業局のほうにお願いしたいということで、一つは予定を聞いておきたいと思いますが、今軌道内のコンクリート舗装等をしていると思いますが、これの最終年度はどのくらいなのか。各ブロック別にやってきて、軌道内のアスファルトをコンクリートに替えていますね。それで、おそらく今、駅前から十字街まで、五稜郭から十字街まで2ヵ所くらいやられると思うのですが、これ最終的にはどのくらいまでやられるんですか。

施設課長

最終的には、全線コンクリート化する予定ではありますが、今のところ、この年度までということには行き着いていません。というのは、過去の工法の話ですが、コンクリート舗装で進めたり、アスファルト舗装で進めたりといろいろな工法を試しながらやってきていますので、必ずしもアスファルト区間が古い軌道というふうにはなっていないものですから、舗装というよりも、舗装の下に隠れている、いわゆる枕木相当の部分、ここが傷んできているところを優先的に改良していきまして、その際に、アスファルト区間があるとすれば、そこは全てコンクリート化するというような工法で進めてまいります。

木村(鶴)委員

わかりました。枕木が老いている区間を中心に替えるということでもいいですね。それともう一つですね。今作業されていると思いますが、平成29年度は大変雪も多かったし、凍上も激しかったと思いますが、今年度も雪は少ないですけれども、結構凍上していきまして、ことし冬場に今まではなかったような気がしますけれども、回復工事をやっているということで、これ実は、残骸がちょっとそのままになっていまして、二次災害にも交通事故にも起端するような部分が出て

きています。たまたまですね、ことしから市から除雪機の貸し出しをしていただいて、この貸し出しの目的というのは、通学路を確保するという、あと地域の除雪ということのため無償で貸しているのですが、横断歩道を渡っているうちに咬んでしまって機械が壊れたんです。調べてみたら舗装のカスでした。これ、折角、改良していただいているのですが、そういう災害もまた発生しているものですから、その後始末をきちっと確認するようにして、この次の改良をしてほしいということで。特に、ことし冬やられているところの大手町から十字街にかけてやっていたけれども、私も週に1回くらいパトロールに歩いていますけれども、折角借りた機械が壊れてしまったということで、市のほうはですね、油も維持管理費も負担してくれまして、大変助かりましたが、逆に言う、そういうこともありましたことから、一つその辺も気をつけていただきたい。

佐藤(秀)
副会長

交通部絡みで、ちょっとお聞きしたいのですが、先日、行政相談懇談会というのがあり、女性会議の佐々木委員もそのメンバーなのですが、その中で札幌の話が出ました。それは安全地帯の改良をずっと重ねてきたのですが、低床電車で併せてということで、車椅子の人も利用できるようにということ考えたのだろうと思いますが、安全地帯にスロープを着けたのですけれども、そのスロープの幅が非常に狭い。狭いのもかかわらず、これはスロープですよという車椅子のマークを付けたのが問題になりました。そのことについて、行政評価局のほうでこれはだめですよと言ったことが、新聞にもテレビのワイドショーにも出まして、かなり問題になったみたいなのですが、改めて2月に函館で行われた懇談会の中で、その話が出まして、函館はどうなんだという話が幾つか出ました。そこで、低床電車が増えてきているのは我々もよく承知しているところですが、安全地帯がそれに対応して、どういうふうになっているのだろうかということが一つ。主な停留所では、停留所が大きくなって、スロープも着けるということで、車椅子を利用する人たちも利用しやすくなっているということは、よく承知しているところですが、我々としては車椅子を利用する人たちに電車を使いなさいと、そういう歴史のある公共の交通機関を利用しようじゃないかと言いながら、私も滅多に使わないのですが、そういう話をしながら、いろいろな話を聞いていると、やっぱり使いづらいという話も出てきます。その辺のところについては、我々も調査しているわけではないのですが、交通部のほうで、利用状況がどうなのか、安全地帯はどうか、それから、運転手さんがきつと大変だろうと思いますが、運転手さんに対する教育はどうかということなどについて、簡単に構いませんので、教えていただければと思います。よろしくお願いします。

施設課長

車椅子で移動できる電停の数でございます。国で定めている基準からいくと、スロープの幅は1.2メートル以上、乗り場であるホームの幅は1.5メートル以上を確保しなさいというルールがありまして、その基準に合わせるということになりますと、電停を改修していかなければならない。電停の幅を広げるにあたっては、当然ながら道路を狭くするか、もしくは、道路の幅も併せて広くするような大掛かりな工事になってしまいます。しかしながら、企業局では、国の補助などを活用しながら、近年行ってきました函館駅前、松風町、千代台、中央病院前、五稜郭公園前、競馬場前、市役所前、魚市場通、宝来町の9カ所の電停に関しては、国が示しているバリアフリー基準に合わせています。それ以外で、そこまでの幅員をとれていない7停留所は幅が狭いですがスロープを着けて、物理的に車椅子が通るギリギリのスペースは確保しています。逆の言い方をしますと、スロープのない停留所が10カ所残っています。今後はこれらの停留所を中心にバリアフリー化を進めて行く考えでございます。

事業課長

乗務員の教育についてですが、らっくる号導入のときに、シートの跳ね上げ方、止め方などの研修を行ってきております。また、車椅子の持ち方や押し方などもあるようですが、我々は、車椅子の方を車内に乗せて安全にベルトを締めるというような研修を行ってしております。車椅子の乗車数ですが、

乗務員からの報告による数字ですけれども、ここ3年間で、平成28年度は86名の方にご利用をいただきました。平成29年度は110名、平成30年度はまだ3月の集計は出ていませんけれども、現在までで87名という利用状況でございます。

4 閉会

経営企画課長

以上で、本日の日程はすべて終了となりますが、本日の会議録につきましては、この後、事務局にて案を作成し、後日、各委員に郵送させていただき、ご確認いただく形で作成してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上で、平成30年度第4回函館市企業局経営懇話会を閉会します。どうもありがとうございました。